

スズメバチとその巣

スズメバチは、昆虫の数の調整について、重要な役割を果たしています。釧路には、数種類のスズメバチがいます。その 1 つが、世界最大級のスズメバチであるオオスズメバチの亜種（学名: *Vespa mandarinia japonica*）です。その他、この地域には、ケブカスズメバチ（学名: *Vespa simillima simillima*）やクロスズメバチ（学名: *Vespula flaviceps*）などの種がいます。

巣作り

釧路湿原には、朽ちている木、樹皮、枯草といった巣の材料が豊富にあります。スズメバチの異なる種は、異なる材料を使って巣を作りますが、巣作りの過程は似ています。女王蜂は、冬眠から覚めると、噛んで繊維にした材料から六角形の巣穴をいくつか作り、卵を生みます。卵から孵った働き蜂は、巣を大きくするために材料を集め、巣穴を増やします。働き蜂の数が増えると、巣は風船のように徐々に外側に広がっていきます。スズメバチは、ミツバチと違って、巣の中に蜂蜜を貯めることはしません。